

1月1日午後4時10分。あの日、あの時の能登半島地震。七尾市には震度6強の地震が襲いました。また、羽咋市には、震度6弱の地震が襲いました。地震からしばらくして、大津波警報が発表され、多くの人が、地震直後に、避難場所に逃げ込むという光景が見られました。

あの日の地震には、いくつかの特徴がありました。

①元旦であったということ。

元旦でしたから、実家に里帰りしていた若者や、家族がそろそろ大切な日として、いつもは年齢が高い人々の町が、たくさんの年齢層にあふれる町並みになっていました。

元旦でしたから、多くの商店街はお休みで、会社も休み、自宅で過ごす人がほとんどでした。

②午後4時10分の地震の前に、震度5強の前震がありました。

わずか4分前でしたが、それなりに大きく揺れたため、いったん家から出た人がたくさんいました。その後、本震が襲ったのでした。

このような事情のため、たくさんの建物が全壊、半壊、倒壊しましたが、倒壊した会社建物や商店でのけが人は少なく、また、帰省していた若い人が、ご自宅で生活するお年を召された方を、外に連れ出してくださいました。その後、大津波警報が発令されましたが、みんなが声かけ合って、避難場所に行くことができたのは、これまた、このような事情の故でした。

七尾教会と七尾幼稚園は、能登半島のほぼ中央、七尾市旧市街の御祓（みそぎ）地区にあります。その地域の人々の津波の時の避難場所は教会と幼稚園に隣接する小高い小丸山城址公園です。確かに避難場所ですが、避難建物があるわけではなく、ベンチがあるわけでもなく、散策型の公園です。いったんは避難はしてみたけれども、寒さの中で、30分も立っていれば疲れてしまいます。そこに、何百人という人が集まってしまいました。

もちろん地震と同時に、公園近くの指定避難所の公民館などの鍵が開けられましたが、施設の広さと比較して人が多すぎる。そこで、公園に隣接する七尾幼稚園と七尾教会にも、地域防災士の方から臨時の避難所の要請があり、お受けすることになったのです。

七尾教会と七尾幼稚園の一部は、2007年の能登半島地震の時に、全国の諸教会の皆様のご理解により建て直ささせていただいたもの。被害はありましたが、倒壊する心配はなく、臨時の避難所となりました。1月1日の夕方5時頃から、わずか8日間でしたが、たくさんのドラマとともに、良き働きができたと自負しております。

ただその後、七尾市旧市街は、全壊、半壊がほとんどで、ほんの少しの一部損壊の建物がある程度。そこで暮らしている人は、地震の後、ほんの少しになりました。現在、公費解体も本格的になり、これからあちこちにたくさんの空き地ができて、これから町の形は一変することでしょう。若い人の流出も急激に進んでいます。能登が壊れていく。そんな現実を前にして、悲しい気持ちになっています。

七尾教会と七尾幼稚園は、4つの建物がエキスパンジョイントによって接合され、一体建物として運用されています。異なる構造の建物同士を結び合わせるため、地震などの揺れの時には、それぞれの建物が違う揺れ方をします。建物同士がぶつかって壊れないように、クッションの役割を果たし、また大きな揺れの時には自らが壊れて建物に損傷を与えないようにする。それが、エキスパンジョイントです。その部分が、見事に役割を果たし、壊れて建物を助けてくれました。

2階建ての鉄骨造ですから、地面に近いところは大丈夫でも、2階部分は揺れが大きく、たくさんのところにひび割れがあります。外壁もあちこちでひびが入っており、また、落下している壁もあります。雨漏りが悩みです。教会駐車場も、道路よりも少し高いため、修理が必要と診断が出ています。

七尾幼稚園の震災復興の補助金のための国の査定は、11月6日と決まりました。時間がかかっています。お祈りください。

七尾市より南の羽咋（はくい）市の被害は、七尾市以北と比較するとそれほどでもありませんでした。けれども、活断層の亀裂のように、一定の幅で、一定の距離に沿って大きな地震の被害となった地域があります。千里浜海岸から、JR七尾線を通り、羽咋市後坊山（ごぼやま）町、松ヶ下町を通過して、羽咋高校、余喜（よき）保育所へと至る狭いけれども、長い距離の被害地域です。避難所となっていた羽咋高校は、損傷が大きく当日の避難所となることができず、余喜保育所は園舎の復旧はできないと判断され、廃園が決められました。

その地震の通り道の中に、羽咋白百合幼稚園もありました。園舎本体の基礎は大丈夫でしたが、地盤沈下によって、ほぼすべての保育室の床がへこみ、保育ができなくなりました。増築した0歳児1歳児用の木造建物は、杭基礎ではなくベタ基礎だったため、建物自体が傾き、建て直しとなりました。使用できなくなった期間、園舎に隣接する子育て支援センターで保育を行くこととなりました。半年を経て、2歳児以上のお部屋は工事が完了し、6月10日に園舎での通常保育が始まりました。一方、0歳児1歳児のお部屋は、未だに工事が始まっておりません。国の査定もまだですが、先行工事が認められていることは、感謝です。けれども、業者の手配がつかず、着工できていないのです。

少し離れた羽咋白百合幼稚園の旧園舎であった、放課後児童クラブのゆりっこ児童クラブは、すでに国の査定が終わり、工事が認められています。けれども、こちらの方も業者の手配がつかず、工事はまだとなっています。特に、浄化槽が割れてしまったため、浄化槽をやめて下水につなぐ工事が行われることになっていますが、能登全域で同じことが無数に起こっていますので、順番待ちです。なお、羽咋白百合学院のその他の施設に、地震被害はありませんでした。

七尾教会と関連する学校法人七尾学院の七尾幼稚園・七尾放課後児童クラブの震災復興には、まだまだ時間がかかります。羽咋市にある学校法人羽咋白百合学院の、羽咋白百合幼稚園とゆりっこ児童クラブの震災復興工事も、まだまだ時間がかかります。皆様のお祈りの中に加えていただいていることが、心の支えです。

けれどもこれらの教会と関連施設のことだけではなく、能登全体のことが、気がかりです。どうか、能登のためにもお祈りください。私たちの教会が、祈り続けている愛する能登です。そこには、関連施設の幼稚園の園児がおり、保育園の園児がおり、卒業生たちがいます。放課後児童クラブに集う子どもたちがいます。そしてその保護者の皆様があります。加えて、彼らを愛してくださっている地域の人々がいます。その一人ひとりのためにわたしたちは祈っています。そして何よりも、主にある教会員一人ひとりがいます。みんな地域のために祈っています。自分のため、家族のためだけではなく、愛する能登のために、祈っています。

私たちの愛する能登のために、これからも、私たちと祈りを合わせていただければ、本当にうれしく、感謝です。能登のこと、忘れないでくださいと、心よりお願いいたします。

ご依頼によって七尾教会と七尾学院、羽咋白百合学院のことに限定して、記しました。輪島教会のこと、羽咋教会のこと、富来伝道所のこと、私たちの祈りの中にあります。皆様の、多くのお祈りと、お支えとに、心より感謝しつつ。主にありて。

日本基督教団 七尾教会牧師  
学校法人 七尾学院理事長  
学校法人 羽咋白百合学院理事長  
釜 土 達 雄